散歩ガイドマップ

富士見ヶ丘駅から代田橋駅

富士見ヶ丘駅から代田橋駅まで約6.4キロ

「清流」は地下を通り神田川へ

浅間橋跡から玉川上水の水路敷きは約2kmにわたり中央自動車道(高架)となる。小平監視所先から流れる処理水の「清流」は浅間橋跡から地下の管路となり、中の橋交差点から環状8号線沿いに北上、高井戸駅手前に架かる佃橋の上流側で神田川に落ちる。上水路は中央自動車道と甲州街道が出会う地点で北側に分かれ、その先約1.7km公園・緑道が続く。

小　菊　橋と下高井戸橋

小菊橋は杉並区立玉川上水第三公園の中央部に架かる橋。親柱やレンガ製の欄干などが残されている。この橋付近までの左岸(北側)は神田川方向へかなりの下り坂になっている。

下高井戸橋は古くは永泉寺橋と呼ばれ、上水記にも名が見られる古い橋。現在も昭和2年(1927)に架けられた親柱、欄干などが残されている。

永泉寺と永昌寺

永泉寺は明治期、火災で焼失し、明治43年(1910)新宿にあった永昌寺に合併した。その後永昌寺はこの緑地の北側近くに移転した。**永昌寺**には玉川上水開削のときにこの付近で「玉石」が発掘されたとされ、その「玉石」が祀られている。

永泉寺緑地

下高井戸橋から下流へ約250m続く杉並区立公園。緑地名はかってこの付近にあった永泉寺に由来する。

この緑地は現在「花の名所づくり」がすすめられており、下流側には多くの種類のあじさいが植えられている。

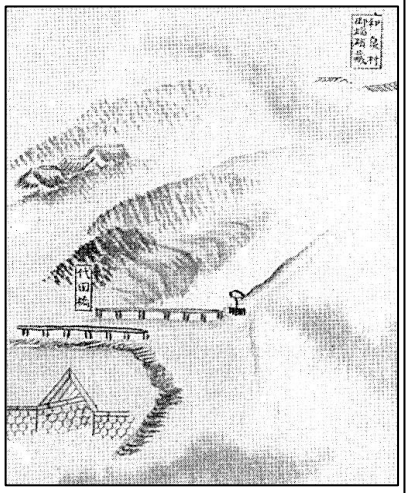
代　田　橋　今　昔

「代田橋」は古くは玉川上水が甲州街道と交わる地点に架かっていた。下図の合掌型石橋は明治の通船の時姿を消した。

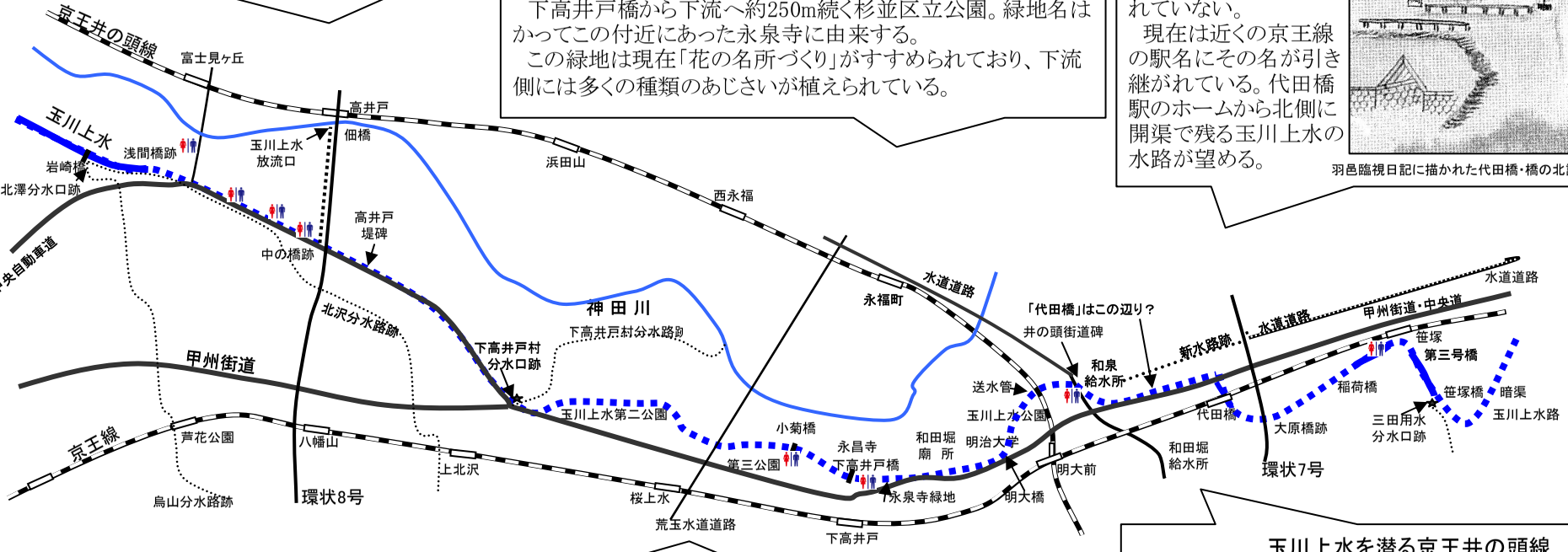
また橋の下流側近くには水番屋があり水番人が常駐して芥止めにかかったゴミ等を除いていた。

玉川上水路の暗渠化や甲州街道の大規模な拡幅で、今ではいずれもその面影すら残されていない。

現在は近くの京王線の駅名にその名が引き継がれている。代田橋駅のホームから北側に開渠で残る玉川上水の水路が望める。



羽邑臨視日記に描かれた代田橋・橋の北詰の高札が見える



送　水　管

昭和41年(1966)、埼玉県朝霞市に完成した朝霞浄水場から杉並区・上井草給水所を経て杉並区和泉の和泉給水所へ直径2.4mの送水管が埋設された。この送水管は旧浅間橋(杉並区久我山2－1)からは玉川上水の水路敷きが使われた。

このとき玉川上水の水路も浅間橋から下流は直径1.8mの鉄管に変えられて排水路として残された。自然流下式のため高速道路下や第二公園の一部区間で地上部が周囲よりやや高くなっていろところがある。

旧水路は埋め立てられて地上部は道路や公園に変わった。

この2本の鉄管は京王電鉄井の頭線を横断する地点で地上に姿を見せている。上下2本の管は上が給水所への送水管、下が玉川上水の排水管である。

荒玉水道・荒玉水道道路

「荒玉」の「荒」とは荒川、「玉」とは玉川すなわち多摩川を指している。荒玉水道(あらたますいどう)は、大正時代から昭和中期にかけ建設された。多摩川の伏流水を水源として砧の浄水場(現在の砧浄水場)で浄水し、直径約1.1メートルの水道管で、砧から自然流下方式で、野方(中野区)と大谷口(板橋区)の給水所に送水、 ポンプで配水塔に汲み上げて豊多摩郡5町村、北豊島郡8町村に配水された。昭和7年、荒玉水道の所管は荒玉水道町村組合から東京市水道局へ移された。

世田谷区喜多見から杉並区梅里までの荒玉水道に沿って、「荒玉水道道路」(東京都道428号高円寺砧浄水場線)がほぼ直線に伸びている。全長8.979Kmの特例都道で、水道管が埋設されているため大型車は通行できない。

玉川上水を潜る京王井の頭線

昭和8年(1933)帝都電鉄(現京王電鉄)が玉川上水の下に敷設された。「素掘り」の玉川上水はコンクリート造りの開渠水路に改修された。昭和41年(1966)に送水管敷設の際に現在の鋼管となった。

線路敷きは複々線分の巾となっている。これは井の頭線の建設時に東京山手急行(計画途中で頓挫した第二山手線)の名残りである。